

## 分科会 2

### 地域における家族支援

#### ～当事者の子育てを支えるための家族丸ごと支援～

出演者： 横山恵子(埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科)  
蔭山正子(大阪大学大学院公衆衛生看護学)  
前田直(杏林大学保健学部作業療法学科、精神に障害がある人の  
配偶者・パートナーの支援を考える会「配偶者の会」代表)  
水月琉凧(子育てピアサポートグループ「ゆらいく」)  
坂本拓(精神疾患の親をもつ子どもの会「こどもびあ」代表)

人生の中で、人を愛し、結婚し、子育てに挑戦することは、障害の有無に関わらず、大切なプロセスです。しかし、子育てをする当事者、配偶者、子どもの実態は知られていません。この分科会では、子育て中の当事者、配偶者、子どもの立場の家族に、それぞれの困難とともに、それぞれの立場から活動しているピアサポートについて語って頂きました。その上で、当事者にとっての結婚、子育ての意味を考え、家族丸ごと支援のあり方を探りました。

#### ●発表の内容

蔭山氏は「当事者の結婚と子育て支援」というテーマで、当事者の抱える課題や悩みとともに、恋愛、結婚、育児が当事者のリカバリーにとって重要な要素であると述べました。そのためには、当事者の「人を愛すること」を応援すること、恋愛、結婚、育児について語る場、学ぶ場を作ることが、これから支援に必要であるとのことでした。

水月氏は「子育て中の当事者の体験談」を話し、現在の「ゆらいく」という子育てピアサポートグループを始めるまでの過程とともに、「当事者は精いっぱい親であろうとして、それが十分できないことに苦しんでいる。当事者を中心とした子育て支援を考えてほしい」と話しました。

前田氏は「配偶者・パートナーの困難とピアサポートの実際」というテーマで、配偶者の生活実態が社会に知られていない課題を述べました。今後、配偶者会を全国に広げていく予定であり、そのために、配偶者版「家族による家族学習会」を開催予定であると報告しました。配偶者には「悩みを相談してほしい」、支援者には「この家庭は家族がいるから大丈夫、という思い込みを捨て、支援してほしい」と話しました。

横山は、「子どもの困難とピアサポートの実際」というテーマで、子どもたちの生活実態、大人になっても抱える生きづらさを述べました。また、「こどもあびあ」によるピアサポートとして、集い、子ども版「家族による家族学習会」の開催、配偶者会と連携した未成年の子ども支援などを報告しました。

坂本氏は、「子どもの体験談」として、現在の精神疾患の親をもつ子どもの会「こどもびあ」を始めるまでの経緯と活動を話しました。坂本氏は、ソーシャルワーカーでもある立場から、「家族は家族、親の支援者にはなれない。支援者とつながってほしい」と話しました。

その後、参加者との質疑となりました。当事者会、それぞれの立場の家族、支援者、教育者など、様々な立場の方が参加してくださいました。300人を超える参加者でした。



《横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）》